

望んで派遣を選んだわけではありません

女性労働者は、仕事も生活も自分も大切にしながら働き続けたいと願っています。派遣労働では、結局、仕事と生活の両立のバックアップにはなっていません。

女性の仕事と生活の両立支援に、派遣労働は役立つ？

確かに、派遣労働を選択している人はいます。しかし、それは、派遣しか選ぶ余地がないから、という声も少なくありません。派遣法ができて20年。雇用主は労働者の使い捨てができる派遣労働でコスト削減するのに慣れてしまい、ますます派遣以外での採用をしなくなっています。

正社員の働き方や雇用慣行が問題

一方、正社員の働き方といえば、過労死もありの長時間労働。働く女性の7割は、妊娠出産をきっかけに離職しています。男性の家事・育児が期待できない中、「カラダが持たない」「育児休業をとれない」「保育園の時間に間に合わない」といった理由であきらめる人も多数。子育て後に復帰しようにも、正社員として中途採用する会社はめったになく、あるのは派遣など非正規だけ。だから「派遣がなくなると、仕事がなくなる」と、女性は不安を持つのです。これを、労働者のニーズというのでしょうか？

働くものが、安心してしっかり働く土台は、責任ある雇用主の存在が不可欠です。



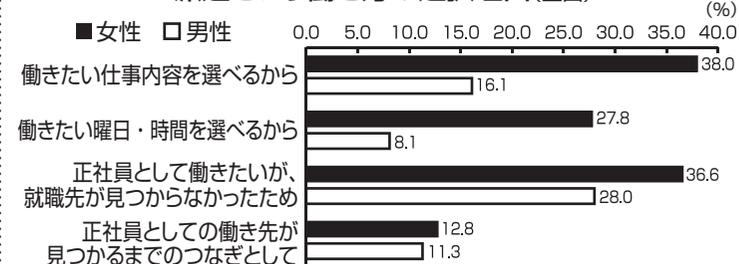
仕事があり働きたい人がいる 中間搾取の派遣会社の出番はなくていい

男女平等に働きたいという運動から男女雇用機会均等法ができました。同時につくられたのが労働者派遣法です。「育休切り」で雇い止めをされるのは派遣を含め圧倒的に非正規労働者です。企業は両立支援にお金をかけるよりも安く女性を使い捨てにしたいのが本音。

「専門」26業種として残される登録型派遣では、派遣元会社は仕事の紹介先がなければすぐに解雇する。つまり雇用責任をはたさない職業紹介が事業の実態です。

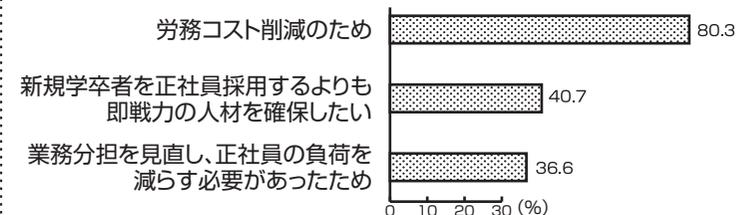
このシステムが、派遣先会社の経営者をどんどん無責任にし、大量の「派遣切り」を生んだのです。

派遣という働き方の選択理由(全国)



資料出所：厚生労働省「労働者派遣事業実態調査」(調査平成14年6月発表10月)

非正社員の割合が上昇している要因(複数回答上位3つ)



資料出所：(独)労働政策研究・研修機構「多様化する就業形態の下での人事戦略と労働者の意識に関する調査(事業所調査)」(2005年)

- ・現在の派遣会社に入って10年、フルタイムで年収300万にとどかず。正社員になりたかったのだけれど、40歳を超えたとなん、正規の採用条件は40歳以下と言われた(一般事務40代)
- ・正社員と同じ業務をしても更新で切られる可能性大。ボーナスも交通費も出ない派遣社員は大変厳しい。(一般事務20代)
- ・正社員には産休や育休があり、保険も継続できます。派遣社員は辞職するしかない。(一般事務30代)

出所：東京都産業労働局2006年派遣労働に関する実態調査

登録型派遣労働者

- ・女性が8割。1日約7時間で、週約5日労働。時間給が多い。35歳を過ぎると仕事の紹介がめっきり減る
- ・20~30歳代74%
- ・約18万円(月額平均)
- ・一般事務が約31%、事務用機器操作が約22%

資料出所：厚生労働省「労働力需給制度についてのアンケート調査」(平成17年)

全労連 全国労働組合総連合

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4
TEL (03) 5842-5611 FAX (03) 5842-5620
http://www.zenroren.gr.jp